

「聞かれない祈り」(2019. 3. 17)

すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。(Ⅱコリント 12:9)

何か病気を患っていたパウロは、何度も癒してくれるよう祈っていた。しかし、この祈りは聞かれなかった。またもう一つ聞かれなかった祈りを聖書は記録している。主イエスのゲッセマネの祈りである。「この杯をわたしから取りのけてください」(マルコ 14:36) という祈りも聞かれなかった。



しかし、考えてみると、こうした聞かれなかった祈りは、ある意味、聞かれている。このパウロの長年の祈りに対して、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と語られた主イエスの御言葉。この御言葉にどれほど多くの人々が、慰められてきたことか。

またゲッセマネの祈りにしても、もしその通り聞かれていたら、主イエスは十字架に架からなくてもよいことになり、私たちの救いは成就しなかった。この祈りが聞かれなかったことによって、救いの道がすべての人に開かれたのである。

2018年度の横手教会の営みは間もなく終わる。この1年、数々の祈りが聞かれた。主に向かって賛美するため投映スクリーンが導入され、地域の方々を招くために賛美礼拝・イブ礼拝・ミニかまくらが実施された。また、互いが手を結ぶためにと月ごとに誕生&受洗記念会が行われた。そして、坂道を安心して上り下りできるように手すりが設置された。祈りの中で一つひとつが整えられた。でも、聞かれなかった祈りも多くあった。

パウロの癒しを求める祈り、主イエスのゲッセマネの祈りのように聞かれない祈りにも意味があるならば、それはすでに聞かれたことでもある。主イエスは機会あるごとに熱心に祈るように勧められた。それは必ず聞かれるからだ。いつ、どんな形かは神が決められる。だから、新しい年度も一人ひとりの心に芽生えている新しいことを共有し、祈りの課題にして、大胆に祈っていきたいものである。